



## 平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月9日  
上場取引所 東

上場会社名 アシードホールディングス株式会社  
コード番号 9959 URL <http://www.aseed-hd.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 河本 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員  
経営企画グループ担当

(氏名) 橋本 義徳

TEL 084-923-5552

定時株主総会開催予定日 平成26年6月26日

配当支払開始予定日

平成26年6月27日

有価証券報告書提出予定日 平成26年6月26日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	31,859	△2.2	449	△17.5	433	△17.6	242	△36.1
25年3月期	32,561	△4.1	545	△5.3	526	△6.9	379	3.0

(注) 包括利益 26年3月期 265百万円 (△38.3%) 25年3月期 430百万円 (8.2%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年3月期	37.66	—	5.6	2.8	1.4
25年3月期	58.07	—	9.1	3.3	1.7

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 一百万円 25年3月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	15,342	4,332	28.2	676.67
25年3月期	15,602	4,293	27.5	660.57

(参考) 自己資本 26年3月期 4,332百万円 25年3月期 4,293百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年3月期	1,071	△263	△798	1,042
25年3月期	741	95	△1,140	1,029

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00	117	31.0	2.8
26年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00	102	42.5	2.4
27年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00		41.3	

(注) 平成25年3月期の期末配当金10円00銭には、記念配当2円00銭が含まれております。

### 3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,950	1.7	530	1.7	515	0.4	340	1.9	52.70
通期	32,500	2.0	460	2.2	450	3.8	250	2.9	38.75

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 17「4. 連結財務諸表(5) 連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期	6,747,624 株	25年3月期	6,747,624 株
② 期末自己株式数	26年3月期	345,588 株	25年3月期	247,388 株
③ 期中平均株式数	26年3月期	6,451,262 株	25年3月期	6,544,181 株

(参考) 個別業績の概要

平成26年3月期の個別業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	650	4.3	292	7.8	323	14.6	288	△7.9
25年3月期	623	4.6	271	19.4	282	25.4	312	50.4

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期	44.67	—
25年3月期	47.81	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
26年3月期	7,895	38.8	3,063	38.8	478.49	
25年3月期	7,599	39.2	2,981	39.2	458.63	

(参考) 自己資本 26年3月期 3,063百万円 25年3月期 2,981百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、連結財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	4
(4) 事業等のリスク .....	5
2. 企業集団の状況 .....	6
3. 経営方針 .....	7
(1) 会社の経営の基本方針 .....	7
(2) 目標とする経営指標 .....	7
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	7
(4) 会社の対処すべき課題 .....	7
4. 連結財務諸表 .....	8
(1) 連結貸借対照表 .....	8
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	10
連結損益計算書 .....	10
連結包括利益計算書 .....	11
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	16
(継続企業の前提に関する注記) .....	16
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) .....	16
(会計方針の変更) .....	17
(追加情報) .....	18
(セグメント情報等) .....	18
(1株当たり情報) .....	20
(重要な後発事象) .....	20
5. その他 .....	21
(1) 役員の変動 .....	21

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

## (1) 経営成績に関する分析

## (当期の経営成績)

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策の効果による円安・株高を背景として緩やかな回復傾向がみられ、個人消費は持ち直し傾向にあります。消費税率の引上げを背景に依然として景気の先行きは不透明な状況にあります。

自販機オペレーター（運営リテール）業界におきましては、自販機のロケーションや設置台数の飽和状態が続くなか、過剰な設置・取引条件競争に加え、業種業態を超えた価格競争の激化に伴う収益性の低下などにより、業界再編が一段と加速しております。消費税率の引き上げを機に、自販機産業は量的拡大競争から収益改革競争へと大きく方向転換し、環境との調和を重視し社会性を高める事業への転換が強く求められております。

飲料製造事業におきましては、生産過程での燃料・電力料金の大幅な上昇による粗利益等の減少など収益性の低下を余儀なくされました。今後は市場の価格競争とは一線を画した高付加価値製品の製造を強化することで収益性の向上を図ってまいります。

このような状況のなか、当社グループでは引き続き積極的かつ政策的に自販機のリプレースを進めて効率化を図るとともに、フルライン自販機の推進により過剰に設置された自販機の集約化を図りました。また、自社ブランド商品の育成と徹底したコスト削減にも努め、収益構造改革に取り組みました。

以上の結果、当連結会計年度における業績は、次のとおりとなりました。

	(百万円)				(円)
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成26年3月期	31,859	449	433	242	37.66
平成25年3月期	32,561	545	526	379	58.07
伸長率 (%)	△2.2	△17.5	△17.6	△36.1	—

セグメントの概況は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載しております。

(百万円)

	売上高			セグメント利益		
	当期	前期	伸長率(%)	当期	前期	伸長率(%)
自販機運営リテール事業	20,393	20,681	△1.4	459	481	△4.4
飲料製造事業	11,042	11,395	△3.1	210	210	△0.3
飲料サービスシステム事業	351	417	△15.9	45	109	△58.4
不動産運用事業	71	67	7.0	117	116	1.1
小計	31,859	32,561	△2.2	833	917	△9.2
消去	—	—	—	△383	△372	2.9
連結計	31,859	32,561	△2.2	449	545	△17.5

## ① 自販機運営リテール事業

個人消費に回復の傾向がみられるものの、食品・飲料等に対する消費者の節約志向は依然として強く、オフィスや公共施設を中心に自販機では慎重な購買姿勢が続きました。また、同業他社やコンビニエンスストアなどの異業種との競争も一段と激しさを増しており、なかでも自販機販売の主力商品である缶コーヒーについてはコンビニコーヒーとの競争が更に激化しております。このような状況のなか、当社グループではアウトドアを中心に不採算自販機の計画的な撤去を進めるとともに、消費者ニーズに即した付加価値の高い商品を1台に集約して提供する「フルライン自販機」の推進と自社ブランド商品の育成に取り組みました。

この結果、自販機運営リテール事業の売上高は20,393百万円（前年同期比 1.4%減）、セグメント利益は459百万円（同 4.4%減）となりました。

## ② 飲料製造事業

夏季は記録的な猛暑となりましたが、9月以降は例年と比較して天候・気候の不順が続きました。この結果、ブランドオーナー各社が大幅な生産・在庫調整を実施したため、製造・受注面で計画を下回ることとなりました。また、急激な円安の進行による燃料費及び電力料金の大幅な上昇分に対しては、生産効率の見直しとその他製造コストの更なる削減に加え、製品価格の改定により対応を図ってまいりました。しかしながら厳しい価格競争のもと、受託取引先との価格改定に大幅な遅れが生じ、予想以上に苦戦を強いられました。また、同時に一部不採算取引についても不本意ながら取引の解消を実施いたしました。今後は付加価値の高い製品の製造を強化するとともに、仕入調達の見直しや物流経費の削減等により利益率の向上を図ってまいります。

この結果、飲料製造事業の売上高は11,042百万円（前年同期比 3.1%減）、セグメント利益210百万円（同 0.3%減）となりました。

## ③ 飲料サービスシステム事業

遊技人口の長期的な減少傾向には大きな変化はみられず、ホールの経営環境は引き続き厳しい状況にあります。このような状況のなか、遊技場等のお客様に対して、カップ飲料自販機のサービス価値を向上させる「アオンズ・カードシステム」の導入強化を図りましたが、店舗でのイベント広告規制やコスト削減などにより導入店舗における使用枚数は減少いたしました。また、4月からの消費税率の引上げによる価格改定にあわせ、一部大型ホールにおいてカード取引の見直しを実施いたしました。

この結果、飲料サービスシステム事業の売上高は351百万円（前年同期比 15.9%減）、セグメント利益45百万円（同 58.4%減）となりました。

## ④ 不動産運用事業

不動産運用事業による売上高は71百万円（前年同期比 7.0%増）、セグメント利益は117百万円（同 1.1%増）となりました。

## (次期の見通し)

当社グループを取巻く環境、とりわけ自販機運営リテイル事業の経営は一層厳しさを増すものと考えております。しかしながら消費税率の引上げについては収益構造改革のチャンスととらえ積極的に取り組んでまいります。このような状況下、当社グループにおきましては、激しい価格競争とは一線を画した独自戦略で他社との差別化を図ってまいります。具体的には、「フルライン自販機への集約」、「自社ブランド商品の強化」、「アオンズ・カードシステムによる差別化」及び「オフィスコーヒー等のコーヒーサービスの展開」に取り組み、自販機運営リテイル事業と飲料サービスシステム事業の収益拡大を図ります。特に、フルライン自販機につきましては、飲料メーカー数台分の売れ筋商品を1台の自販機に集約することで、過剰に設置された自販機の消費電力の削減を図るとともに、景観保全にも積極的に取り組んで社会的使命を果たしてまいります。

飲料製造事業におきましては引き続き商社やブランドオーナーからプライベートブランド（PB＝自主企画）商品の受託を拡大しますが、価格競争とは一線を画した付加価値の高い製品や他社にない新しい製品の製造に注力するとともに生産体制の見直しによる効率化の推進と原価低減を徹底し、収益性の向上に努めてまいります。また、事業のグローバル化を推進するため、ベトナムでの飲料製造事業を早期に実現してまいります。

## (2) 財政状態に関する分析

## ① 資産・負債及び純資産の状況

## (資産)

当連結会計年度末における流動資産は、6,025百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円減少いたしました。これは受取手形及び売掛金の減少347百万円及び商品及び製品の増加195百万円等によるものです。また、固定資産は9,316百万円となり、前連結会計年度末に比べ、155百万円減少いたしました。これはリース資産(純額)の増加213百万円、建設仮勘定の減少43百万円、のれんの減少78百万円及び長期前払費用の減少223百万円等によるものです。

この結果、総資産は15,342百万円となり、前連結会計年度末に比べ260百万円減少いたしました。

## (負債)

当連結会計年度末における流動負債は7,758百万円となり、前連結会計年度末に比べ407百万円減少いたしました。これは買掛金の減少80百万円、短期借入金の減少170百万円、未払金の増加115百万円及びその他の減少175百万円等によるものです。また、固定負債は3,251百万円となり、前連結会計年度末に比べ109百万円増加いたしました。これはリース債務の増加166百万円等によるものです。

この結果、負債合計は11,010百万円となり、前連結会計年度末に比べ298百万円減少いたしました。

## (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は4,332百万円となり、前連結会計年度末に比べ38百万円増加いたしました。これは当期純利益による増加242百万円、自己株式の取得による減少110百万円、剰余金の配当による減少116百万円及びその他有価証券評価差額金による増加19百万円等によるものです。

この結果、自己資本比率は28.2%（前連結会計年度末は27.5%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,071百万円となりました。増加の理由は主に税金等調整前当期純利益418百万円、減価償却費584百万円、のれん償却額85百万円及び支払利息77百万円等によるものです。一方で、利息の支払額79百万円及び法人税等の支払額251百万円等による資金の減少等がありました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、263百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出255百万円、定期預金の預入による支出123百万円及び定期預金の払戻による収入112百万円等によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、798百万円となりました。これは主に短期借入金の純減少170百万円、自己株式の取得による支出110百万円、リース債務の返済による支出375百万円及び配当金の支払116百万円等によるものです。

この結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ13百万円増加し、1,042百万円となりました。

## キャッシュ・フロー指標の推移

	平成24年 3月期	平成25年 3月期	平成26年 3月期
自己資本比率 (%)	24.7	27.5	28.2
時価ベースの自己資本比率 (%)	33.7	39.4	49.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	4.3	8.3	5.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	15.9	8.6	13.6

自己資本比率 : 自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注4) 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

## (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループの経営は「付加価値を創造する人間活動である」との考えに基づいて、資本効率を重視する経営によって、株主価値と事業価値の増大を図ります。当社グループの成長戦略に基づく事業活動の成果が、株式市場の評価を獲得して「良き投資の対象」となり得るように、長期にわたって持続可能な利益の確保に努めてまいります。

利益配分につきましては、企業価値の向上を図り、かつ企業体質の強化に努め、株主の皆様の期待にお応えできるように業績を反映した適正な利益還元を継続していきたいと考えております。

なお、次期の配当金については、連結配当性向30%以上を目標として、中間配当金8円を含め、年間配当金は16円を予定しております。また、内部留保金・キャッシュフローにつきましては、市況変動と競争激化に備え、財務体質・コスト競争力の強化、将来の事業展開やM&A投資など、企業価値増大のための投資を優先させ、同時に経営基盤の確立に充当する方針です。

## (4) 事業等のリスク

当社グループの事業活動は、多岐に亘る要因の影響を受ける可能性があります。その主なものは以下のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避または発生した場合は全力で解決を図る所存であります。

## ① 法的規制について

連結子会社のアシード株式会社及び北関東ペプシコーラ販売株式会社は、自販機運営リテイル事業において、食品衛生法の規制を受けております。そのため、法的規制の変更があった場合、当社グループの業績に影響を及ぼすことがあります。

## ② 特定の業界における販売シェアについて

連結子会社のアシード株式会社及び北関東ペプシコーラ販売株式会社は、遊技場内での自販機運営リテイルによる販売シェアが比較的高い状況にあります。また、アシードブリュー株式会社は、遊技場内でのカード（アオンズ・カードシステム）の利用シェアが高い状況にあります。

平成26年3月期における遊技場業界に対する売上高は、連結売上高の26.0%を占めており、同業界の経営環境や遊技場数の増減、さらに遊技場の集客数の増減や条例等による規制等によっては影響を受ける可能性があります。

## ③ 飲料製造事業について

連結子会社のアシードブリュー株式会社の宇都宮飲料工場及び宝積飲料株式会社では、ブランドオーナーから依頼を受け清涼飲料や低アルコール飲料の受託生産を請負っております。当社グループの業績は、天候の影響やブランドオーナーの外注政策によっては影響を受ける可能性があります。

## ④ 海外での事業活動について

当社グループは中国でオフィスコーヒースービス事業を推進するとともに、ベトナムでは飲料製造事業に関連する投資及び情報収集活動のため、駐在員事務所を設置しております。こうした海外での事業活動には、予期しない法律や規制の変更、産業基盤の脆弱性に加え、社会的・政治的リスクが内在します。こうしたリスクが顕在化することにより、海外での事業活動に支障が生じ、当社グループの業績や将来計画に影響を与える可能性があります。

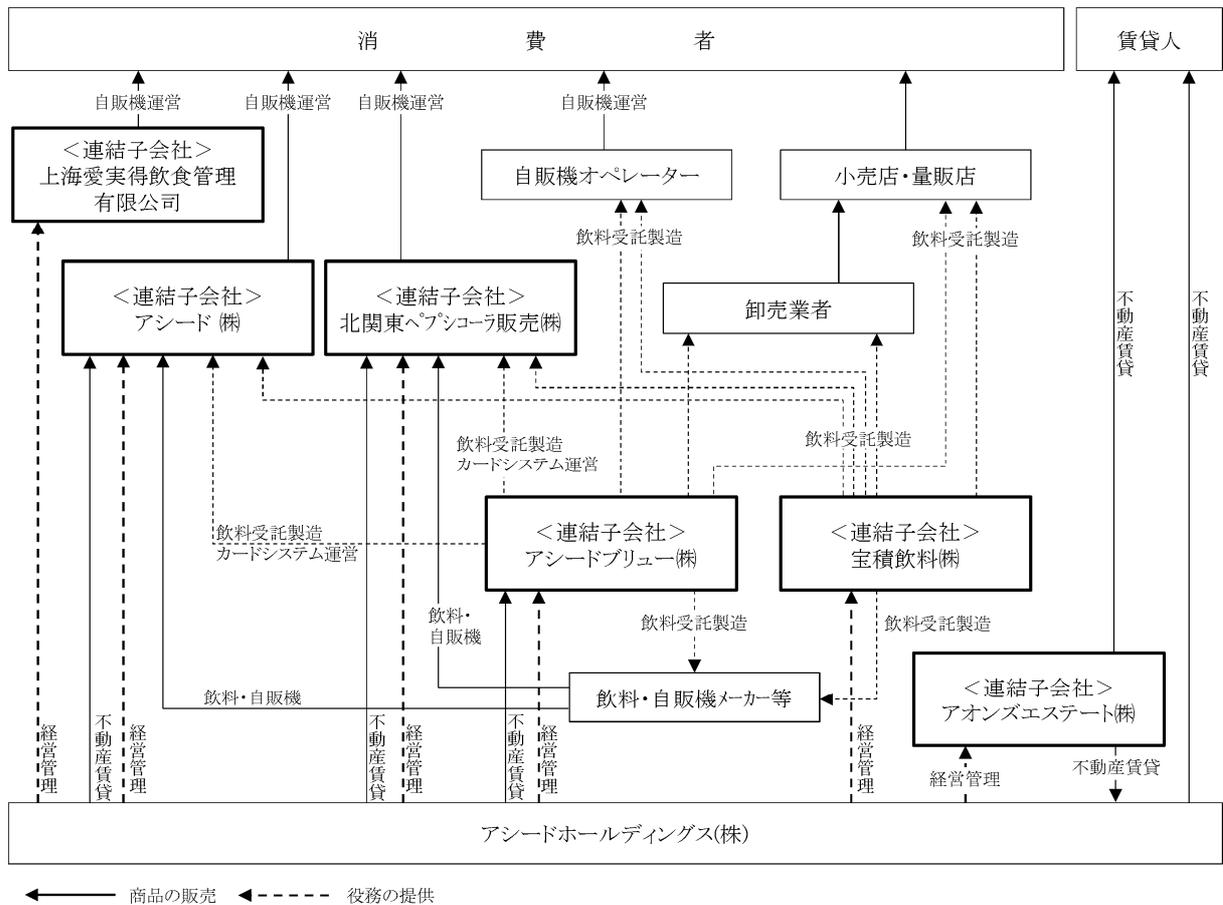
2. 企業集団の状況

当社グループは、アシードホールディングス株式会社（当社）、子会社6社により構成されており、自販機運営リテール、飲料製造、飲料サービスシステム及び不動産運用を主な事業としております。

当社グループの事業内容及び当社と主な関係会社の各事業に係る位置付け、セグメントの関連は次のとおりであります。

セグメントの名称	事業内容	会社名
自販機運営リテール事業	主にカップ飲料、缶・ボトル飲料、紙パック飲料、スナック食品等のスマートストア（自販機）による小売販売及び運営管理	アシード株式会社 北関東ペプシコーラ販売株式会社 上海愛実得飲食管理有限公司 (計 国内2社、海外1社)
飲料製造事業	主に炭酸・コーヒー系飲料の製造、清酒・焼酎・低アルコール飲料の製造と販売	アシードブルー株式会社 宝積飲料株式会社 (国内2社)
飲料サービスシステム事業	飲料自販機用カード及び関連機器の企画・販売・システム管理及びコーヒー飲料等の総合サービスシステムの提供	アシード株式会社 北関東ペプシコーラ販売株式会社 アシードブルー株式会社 (国内3社)
不動産運用事業	オフィスビル、商業施設等の開発及び賃貸等、グループ所有の不動産の有効活用と効率管理	当社 アオンズエステート株式会社 (国内2社)

事業系統図は、次のとおりであります。



### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、消費者起点の発想を我々のビジネスで実現すべく、事業方針「良質の選択 ― 人、環境、未来に」の達成に向けて、「ビジョン（夢）」「ミッション（使命）」そして「バリュー（価値）」の「三位一体となった活動指針」をもって経営を推進してまいります。顧客の立場で消費者、生活者志向のマーケティング活動に徹し、長期にわたって消費者の信頼と支持が得られるように、人間、環境、未来社会に対して「ためになるかどうか」に照らして常に「良質の選択」を実行いたします。

当社グループの最も重要な経営課題は「何のために存在し、何のために生きるか」という価値命題を研ぎ澄ましていくことです。すなわち、当社グループは「消費者に対して、どのような価値を提供しようとしているのか」を明確化し「魂のある会社」にします。当社グループは、顧客、社員、社会及び投資家のロイヤリティを高めるために、事業の企画から販売・サービス・サポートに至る全てのプロセスにおいて、最高水準のサービス価値を創造し、提供するために活動する「サービス・カンパニー」であると考えています。これが当社グループのよって立つ「価値命題」です。

当社グループは「価格」で競争することを避けて、あくまでも「価値」で勝負することを事業コンセプトのベースとした事業価値の創造によって成長を果たしてまいります。そして常に人間性、社会性、経済性を重視した事業行動によって、人間価値、社会価値、事業価値そして資本価値を高めて、会社のコーポレート・バリュー（企業価値）の増大を図ります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは付加価値の増殖による株主資本の充実を図るとともに、株主資本及び総資本の効率的運用と収益性の高揚を目標としております。企業価値を高める中期的な経営指標として、次の数値目標を設定しており、これらの実現と同水準の恒常的な確保に努めます。

- ① 株主資本利益率（ROE） …… 10%以上
- ② 総資本経常利益率（ROA） … 10%以上
- ③ 売上高経常利益率 …………… 5%以上
- ④ 配当性向 …………… 30%以上

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループにおきましては、常に消費者視点に基づき、利便性・経済性を重視した事業展開によって、収益・キャッシュフローを生み出す、体系的な事業体制と自販機運営のビジネスモデルを確立し、比較的市況変動の影響を受けずに安定的に付加価値を確保できるように努めます。

当社グループが目指す自販機運営リテール事業は、自販機の社会有用性と消費電力問題等の環境負荷のバランスを推進して、消費者に対して総合力で応えられるマーケットインの事業構造に転換することです。このためには、飲料メーカーの自販機部門や同業オペレーターとのパートナーリングやアライアンスを通じて、ワンストップでシームレスなサービスを提供することが必要であると考えています。

現在わが国において、自販機による飲料及び食品の販売高は年間約2兆3060億円であり、自販機ビジネスは重要な流通チャネルとなっております。同時に自販機業界の構造改革が社会的に要請されているなかで、当社は将来にあるべき自販機ビジネスのあり方を見据え、社会との調和ある姿に業界全体をリデザイン（再設計）することにより、新たに成長機会を創出するべく、グループ経営を進めてまいります。

また、リスク管理面では、グループ従業員に対するコンプライアンス教育により法令遵守を徹底するとともに、内部統制システムにつきましても一層の充実と体制強化を図ってまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

当社グループの経営資源や資本の効率化など、更なる経営効率の向上に努め、グループの総和的価値を高めてまいります。事業運営にあたりましては、当社グループ特有のビジネスモデル「飲料製造リテール事業」に関する様々なノウハウを最大限活用するとともに、時代にマッチした組織体制を整え競争力を強化してまいります。

自販機オペレーター業界におきましては、一層激しさを増す企業間競争や消費税率引き上げによる販売不振や収益性の低下等により、業界再編が一段と進行するものと予測されます。こうした環境下で、自販機産業全体が大きな転機を迎えており、収益性重視の事業再構築が、当社のみならず全体の競争力向上や産業構造転換のために焦眉の急となっております。

このような状況のもとで、当社グループは経営資源の重点的かつ効率的な投入を図りながら、同業の専門オペレーターとの間で業務提携、M&A（企業の合併・買収）を積極的に推進し、自販機設置の適正化とグループの競争力を高めていくことが重要課題であると考えております。また、飲料製造については利益率重視の経営へと大きく舵を切っており、具体的には商社やブランドオーナーに対するプライベートブランド（PB＝自主企画）商品については、付加価値の高い製品の製造に注力し、価格競争とは一線を画してまいります。当社が流通の川下で選択するこの成長戦略は、引き続き優位性を堅持できるものと考えており、これにより事業エリアの拡大を実現するとともに新しいビジネス機会に対応し、収益体質の強化を図り、確固たる経営基盤を構築していく所存であります。

## 4. 連結財務諸表

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,091,868	1,105,080
受取手形及び売掛金	2,314,814	1,967,477
商品及び製品	1,035,099	1,230,648
原材料及び貯蔵品	226,463	227,446
仕掛品	—	150
前払費用	886,836	799,281
繰延税金資産	66,731	103,274
その他	512,969	594,669
貸倒引当金	△4,345	△2,572
流動資産合計	6,130,437	6,025,455
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,440,123	3,498,759
減価償却累計額	△2,253,935	△2,353,131
建物及び構築物(純額)	1,186,188	1,145,627
機械装置及び運搬具	2,841,450	2,985,521
減価償却累計額	△2,426,154	△2,535,467
機械装置及び運搬具(純額)	415,296	450,053
工具、器具及び備品	260,825	245,624
減価償却累計額	△229,213	△219,599
工具、器具及び備品(純額)	31,612	26,025
土地	3,779,081	3,775,013
リース資産	1,781,213	1,997,426
減価償却累計額	△825,523	△828,018
リース資産(純額)	955,690	1,169,408
建設仮勘定	61,552	17,792
有形固定資産合計	6,429,421	6,583,920
無形固定資産		
のれん	506,359	427,579
リース資産	42,414	30,854
その他	29,931	37,725
無形固定資産合計	578,705	496,159
投資その他の資産		
投資有価証券	624,743	648,869
長期貸付金	31,549	29,846
長期前払費用	1,077,113	853,570
繰延税金資産	227,007	201,008
その他	546,479	543,553
貸倒引当金	△42,899	△40,288
投資その他の資産合計	2,463,994	2,236,559
固定資産合計	9,472,121	9,316,640
資産合計	15,602,558	15,342,095

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,705,984	2,625,581
短期借入金	2,350,000	2,180,000
1年内返済予定の長期借入金	910,980	858,720
リース債務	324,880	372,290
未払金	766,674	881,870
未払法人税等	167,695	114,423
未払消費税等	85,404	44,695
繰延税金負債	55	50
賞与引当金	131,293	133,170
その他	723,032	547,463
流動負債合計	8,166,001	7,758,266
固定負債		
長期借入金	1,831,354	1,857,634
リース債務	766,496	933,169
再評価に係る繰延税金負債	41,564	40,019
退職給付引当金	124,003	—
役員退職慰労引当金	161,480	132,542
退職給付に係る負債	—	135,475
資産除去債務	2,800	2,800
その他	215,025	150,108
固定負債合計	3,142,722	3,251,749
負債合計	11,308,724	11,010,015
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	798,472	798,472
資本剰余金	1,012,778	1,012,778
利益剰余金	3,221,078	3,350,297
自己株式	△191,779	△302,210
株主資本合計	4,840,549	4,859,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,731	18,263
土地再評価差額金	△544,561	△547,392
為替換算調整勘定	△422	2,474
退職給付に係る調整累計額	—	△602
その他の包括利益累計額合計	△546,715	△527,257
純資産合計	4,293,834	4,332,080
負債純資産合計	15,602,558	15,342,095

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	32,561,695	31,859,653
売上原価	21,125,548	20,597,238
売上総利益	11,436,147	11,262,414
販売費及び一般管理費	10,890,440	10,812,432
営業利益	545,706	449,981
営業外収益		
受取利息	6,105	6,228
受取配当金	6,953	7,110
不動産賃貸料	5,777	7,104
受取賃貸料	17,258	16,382
受取保険金	24,899	2,289
違約金収入	67	308
受取補償金	1,177	1,177
その他	44,763	47,707
営業外収益合計	107,002	88,308
営業外費用		
支払利息	87,834	77,954
その他	38,552	26,742
営業外費用合計	126,387	104,697
経常利益	526,321	433,592
特別利益		
固定資産売却益	7,307	68
投資有価証券売却益	25,130	7,015
特別利益合計	32,438	7,083
特別損失		
固定資産売却損	6,045	3,632
固定資産除却損	1,430	10,234
減損損失	2,918	7,306
投資有価証券売却損	5,540	250
投資有価証券評価損	—	683
その他	66	—
特別損失合計	16,001	22,106
税金等調整前当期純利益	542,758	418,570
法人税、住民税及び事業税	243,580	198,063
法人税等調整額	△80,814	△22,450
法人税等合計	162,766	175,613
少数株主損益調整前当期純利益	379,991	242,956
当期純利益	379,991	242,956

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	379,991	242,956
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49,469	19,994
為替換算調整勘定	1,505	2,896
その他の包括利益合計	50,975	22,890
包括利益	430,967	265,847
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	430,967	265,847

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	798,472	1,012,778	2,946,149	△102,827	4,654,572
当期変動額					
剰余金の配当			△105,062		△105,062
当期純利益			379,991		379,991
自己株式の取得				△88,952	△88,952
土地再評価差額金の取崩					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	274,929	△88,952	185,977
当期末残高	798,472	1,012,778	3,221,078	△191,779	4,840,549

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△51,200	△544,561	△1,928	—	△597,690	4,056,881
当期変動額						
剰余金の配当						△105,062
当期純利益						379,991
自己株式の取得						△88,952
土地再評価差額金の取崩						—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	49,469	—	1,505	—	50,975	50,975
当期変動額合計	49,469	—	1,505	—	50,975	236,952
当期末残高	△1,731	△544,561	△422	—	△546,715	4,293,834

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	798,472	1,012,778	3,221,078	△191,779	4,840,549
当期変動額					
剰余金の配当			△116,568		△116,568
当期純利益			242,956		242,956
自己株式の取得				△110,431	△110,431
土地再評価差額金の取崩			2,830		2,830
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	129,219	△110,431	18,788
当期末残高	798,472	1,012,778	3,350,297	△302,210	4,859,337

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△1,731	△544,561	△422	—	△546,715	4,293,834
当期変動額						
剰余金の配当						△116,568
当期純利益						242,956
自己株式の取得						△110,431
土地再評価差額金の取崩						2,830
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	19,994	△2,830	2,896	△602	19,457	19,457
当期変動額合計	19,994	△2,830	2,896	△602	19,457	38,246
当期末残高	18,263	△547,392	2,474	△602	△527,257	4,332,080

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	542,758	418,570
減価償却費	634,994	584,363
減損損失	2,918	7,306
のれん償却額	86,033	85,575
貸倒引当金の増減額(△は減少)	9,739	△4,384
賞与引当金の増減額(△は減少)	△294	1,877
退職給付引当金の増減額(△は減少)	4,234	—
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△5,000	△28,937
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	10,541
受取利息及び受取配当金	△13,058	△13,338
支払利息	87,834	77,954
投資有価証券売却損益(△は益)	△19,590	△6,765
投資有価証券評価損益(△は益)	—	683
固定資産売却損益(△は益)	△1,262	3,563
固定資産除却損	1,430	10,234
売上債権の増減額(△は増加)	△38,425	348,827
たな卸資産の増減額(△は増加)	38,096	△196,581
長期前払費用の増減額(△は増加)	52,948	298,072
その他の資産の増減額(△は増加)	93,986	33,668
仕入債務の増減額(△は減少)	△149,997	△80,427
未払消費税等の増減額(△は減少)	△12,334	△40,708
その他の負債の増減額(△は減少)	△348,722	△108,112
その他	347	△9,874
小計	966,636	1,392,107
利息及び配当金の受取額	15,810	7,888
利息の支払額	△86,318	△79,009
法人税等の支払額	△179,128	△251,353
保険金の受取額	24,899	2,289
営業活動によるキャッシュ・フロー	741,899	1,071,923
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△183,619	△255,669
有形固定資産の売却による収入	42,418	22
のれんの取得による支出	△4,395	△6,795
無形固定資産の取得による支出	△3,524	△12,202
投資有価証券の取得による支出	△108,935	△33,191
投資有価証券の売却による収入	53,312	32,471
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	3,257	—
貸付けによる支出	△1,300	△2,300
貸付金の回収による収入	3,930	2,381
定期預金の預入による支出	△237,033	△123,663
定期預金の払戻による収入	524,236	112,134
投資その他の資産の増減額(△は増加)	7,250	23,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	95,596	△263,410

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△558,028	△170,000
長期借入れによる収入	1,150,000	900,000
長期借入金の返済による支出	△1,138,259	△925,980
自己株式の取得による支出	△88,952	△110,431
リース債務の返済による支出	△399,798	△375,074
配当金の支払額	△105,062	△116,568
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,140,101	△798,054
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,420	2,983
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△301,185	13,442
現金及び現金同等物の期首残高	1,330,479	1,029,294
現金及び現金同等物の期末残高	1,029,294	1,042,737

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 6社

主要な連結子会社の名称

アシード株式会社

北関東ペプシコーラ販売株式会社

アシードブリュー株式会社

宝積飲料株式会社

アオンズエステート株式会社

上海愛実得飲食管理有限公司

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

株式会社サンパレード

株式会社プリオ・ブレンデックス

株式会社プリオ・ウェルネス

関西薬品工業株式会社

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 一社

(2) 持分法を適用していない関連会社 一社

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち上海愛実得飲食管理有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

②たな卸資産

主として月次総平均法又は最終仕入原価法（自動販売機内商品、貯蔵品）による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

(ただし、当社及び国内連結子会社は平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法によっております。)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～38年

機械装置及び運搬具 10～12年

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④長期前払費用

販売促進費に係わる長期前払費用は、契約期間の明示されているものはその期間内で均等償却を行い、契約期間等の定めのないものは、支出時に全額費用処理しております。なお、取引条件として目標売上高の明示されているものは、目標売上高を基に売上高実績値に応じて償却を行っております。

その他の長期前払費用は定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

当社及び国内連結子会社は従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

③役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社の一部は役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外連結子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

自動販売機による売上は現金回収時に計上し、受託加工製造による売上は主に加工完了時に計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年又は20年間の均等償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(会計方針の変更)

退職給付に関する会計基準等の適用

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当連結会計年度末より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、退職給付債務の額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、会計基準変更時差異未処理額を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が930千円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が602千円減少しております。

## (追加情報)

法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.7%から35.3%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は10,417千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

## (セグメント情報等)

## セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、自販機運営と飲料製造を中心とした複数の事業を営んでおり、その事業区分ごとに当社及び当社の連結子会社が単一もしくは複数の事業に従事する事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは「自販機運営リテイル事業」、「飲料製造事業」、「飲料サービスシステム事業」及び「不動産運用事業」の4つを報告セグメントとしております。

なお、それぞれの報告セグメントに含まれる主要な製品・商品及びサービスは以下のとおりであります。

- (1) 自販機運営リテイル事業 : カップ飲料、缶・ボトル飲料、紙パック飲料、食品等の自動販売
- (2) 飲料製造事業 : 炭酸・コーヒー系缶飲料、清酒・焼酎・リキュールの製造・販売
- (3) 飲料サービスシステム事業 : 飲料自販機利用カードの販売・運営・管理、遊技場内におけるコーヒーサービス
- (4) 不動産運用事業 : 不動産賃貸

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,681,338	11,395,936	417,336	67,084	32,561,695	—	32,561,695
セグメント間の内部 売上高又は振替高	84,118	825,620	2,841	156,462	1,069,042	△1,069,042	—
計	20,765,457	12,221,556	420,177	223,547	33,630,738	△1,069,042	32,561,695
セグメント利益	481,132	210,994	109,618	116,142	917,887	△372,181	545,706
セグメント資産	7,491,970	5,366,117	45,926	1,396,328	14,300,342	1,302,215	15,602,558
その他の項目							
減価償却費	348,413	268,787	42	13,768	631,012	4,155	635,167
のれんの償却額	61,368	13,366	1,268	—	76,004	10,029	86,033
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	293,021	136,798	—	—	429,820	9,354	439,174

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△372,181千円には、セグメント間取引消去7,810千円、のれんの償却額△10,029千円、各セグメントに配分していない全社費用△369,962千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額1,302,215千円には、各セグメントに配分していない全社資産1,442,747千円とセグメント間取引消去△140,531千円が含まれております。全社資産の主なものは、余剰運転資金（預金及び有価証券）及び管理部門にかかる資産等であります。
  - (3) のれんの償却額の調整額10,029千円は、各セグメントに配賦不能なものであります。また、減価償却費の調整額4,155千円は各セグメントに配分していない全社資産に係るものであり、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額9,354千円は各セグメントに配分していない全社資産の増加額であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額
	自販機運営 リテイル事業	飲料製造事業	飲料サービス システム事業	不動産運用 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,393,843	11,042,839	351,157	71,811	31,859,653	—	31,859,653
セグメント間の内部 売上高又は振替高	83,162	741,636	2,354	157,406	984,560	△984,560	—
計	20,477,005	11,784,476	353,512	229,218	32,844,213	△984,560	31,859,653
セグメント利益	459,818	210,262	45,577	117,421	833,078	△383,097	449,981
セグメント資産	7,320,866	5,071,924	31,191	1,625,337	14,049,320	1,292,775	15,342,095
その他の項目							
減価償却費	321,490	244,085	42	15,042	580,660	3,880	584,540
のれんの償却額	60,911	13,366	1,268	—	75,546	10,029	85,575
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	513,952	248,187	—	1,021	763,162	32,626	795,788

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△383,097千円には、セグメント間取引消去6,010千円、のれんの償却額△10,029千円、各セグメントに配分していない全社費用△379,077千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額1,292,775千円には、各セグメントに配分していない全社資産1,429,477千円とセグメント間取引消去△136,702千円が含まれております。全社資産の主なものは、余剰運転資金（預金及び有価証券）及び管理部門にかかる資産等であります。
  - (3) のれんの償却額の調整額10,029千円は、各セグメントに配賦不能なものであります。また、減価償却費の調整額3,880千円は各セグメントに配分していない全社資産に係るものであり、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額32,626千円は各セグメントに配分していない全社資産の増加額であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	660.57円	676.67円
1株当たり当期純利益金額	58.07円	37.66円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益 (千円)	379,991	242,956
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	379,991	242,956
期中平均株式数 (千株)	6,544	6,451

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

(1) 役員の変動

① 代表取締役の変動

該当事項はありません。

② その他の役員の変動

・新任取締役候補

取締役 宝積 良忠 (現 宝積飲料株式会社 代表取締役社長)

社外取締役 小林 宏明 (現 日東製網株式会社 代表取締役社長)

・新任監査役候補

(常勤) 監査役 花川 高文 (現 執行役員 総務グループ担当 兼 内部統制監査室マネージャー)

・退任予定監査役

(常勤) 監査役 田上 龍司 (顧問 就任予定)

③ 就退任予定日

平成26年6月26日